

# 経済・金融 フラッシュ

## 鉱工業生産 15年5月

～内外需の不振から生産は足踏み状態に

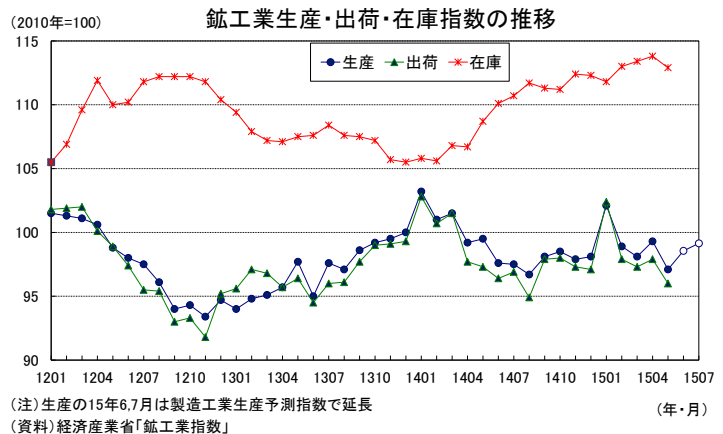
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 5月の生産は前月比▲2.2%の大幅低下

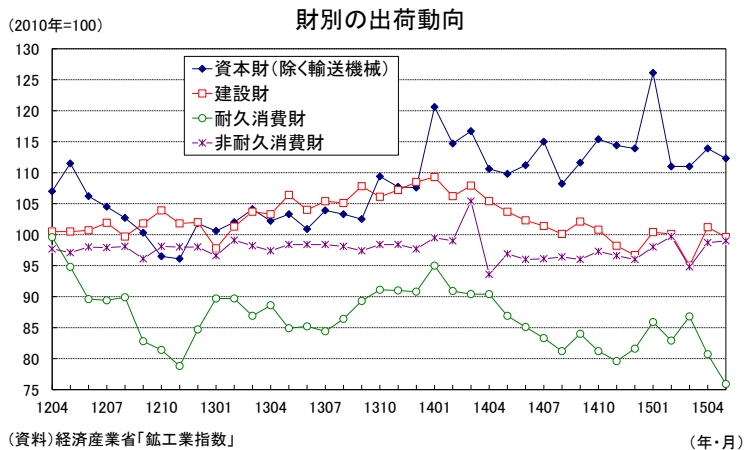
経済産業省が6月29日に公表した鉱工業指数によると、15年5月の鉱工業生産指数は前月比▲2.2%と2ヵ月ぶりに低下し、先月時点の予測指数の伸び（前月比0.5%）、事前の市場予想（QUICK集計：前月比▲0.7%、当社予想は同▲0.2%）をともに大きく下回る結果となった。出荷指数は前月比▲1.9%と2ヵ月ぶりの低下、在庫指数は前月比▲0.8%と4ヵ月ぶりに低下した。

5月の生産を業種別に見ると、低迷が続いていた鉄鋼は前月比0.5%と4ヵ月ぶりに上昇したが、国内販売の低迷などから在庫調整が遅れている輸送機械が前月比▲5.4%と大きく落ち込んだほか、堅調に推移してきたはん用・生産用・業務用機械（前月比▲1.4%）、電子部品・デバイス（同▲4.3%）も低下した。速報段階で公表される15業種中12業種が前月比で低下、3業種が上昇した。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は15年1-3月期の前期比1.2%の後、4月が前月比2.6%、5月が同▲1.4%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は15年1-3月期の前期比▲0.1%の後、4月が前月比6.5%、5月が同▲1.6%となった。4、5月の平均を1-3月期と比較すると、資本財（除く輸送機械）は▲2.5%低い水準、建設財は1.9%高い水準にある。

GDP統計の設備投資は15年1-3月期に前期比2.7%の高い伸びとなったが、4-6月期は大幅な減速が不可避であり、前期比でマイナスとなる可能性もあるだろう。



消費財出荷指数は15年1-3月期の前期比3.1%の後、4月が前月比▲0.9%、5月が同▲3.1%となった。非耐久財は4月が前月比4.1%、5月が同0.3%（1-3月期：前期比0.9%）と底堅く推移しているが、自動車の落ち込みなどから耐久財が4月（前月比▲7.0%）、5月（同▲5.9%）ともに急速に落ち込んだ（1-3月期：前期比5.4%）。消費財出荷指数の4、5月の平均は1-3月期よりも▲3.2%低い水準にある。先週末に公表された家計調査、その他の個人消費関連指標の結果と合わせて考えても、個人消費の基調は弱い。GDP統計の個人消費は14年7-9月期から前期比で増加を続けてきたが、15年4-6月期は4四半期ぶりの減少となる可能性がある。

## 2. 内外需の不振から生産は足踏み状態に

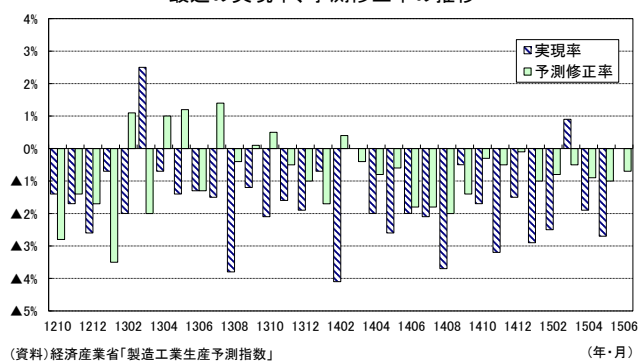
製造工業生産予測指数は、15年6月が前月比1.5%、7月が同0.6%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（5月）、予測修正率（6月）はそれぞれ▲2.7%、▲0.7%となり、生産計画が下方修正される傾向が続いている。

15年5月の生産指数を6月の予測指数で先延ばしすると、15年4-6月期は前期比▲1.4%となる。鉱工業生産は消費税率引き上げの影響から14年度前半に大きく落ち込んだ後、14年10-12月期、15年1-3月期と2四半期連続で増加したが、4-6月期は3四半期ぶりの減産となることが確実となった。6、7月は増産計画となっているが、生産計画が下方修正される傾向が続いていることを考慮すれば、生産の低迷は夏場まで続く可能性がある。

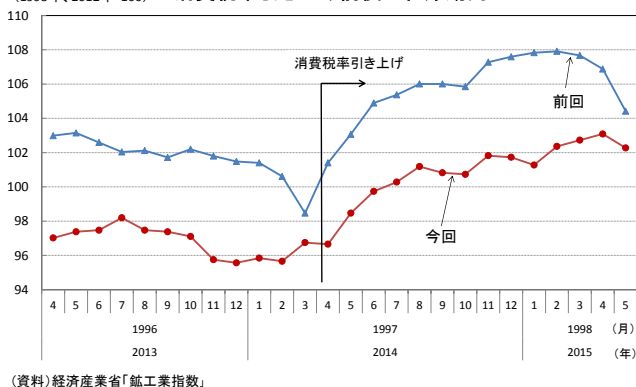
景気は消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動が和らぐ中、14年度末にかけて持ち直していたが、ここに来て個人消費を中心に内需が弱い動きとなっていることに加え、中国、新興国を中心とした海外経済の減速を背景に輸出も弱含んでいる。

5月の在庫指数は4ヵ月ぶりに低下したが、消費税率引き上げ後の上昇トレンドに歯止めがかかったとはいえない。内外需の不振を背景とした在庫調整の遅れから生産は足踏み状態となっている。

最近の実現率、予測修正率の推移



(1995年、2012年=100) 消費税率引き上げ前後の在庫動向



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。